



F-4 ファントムII 製作完全ガイド

1/72 ファインモールド編

FineMolds 1/72 F-4 PHANTOM II

大日本絵画
Dainippon Kaiga

Fine Molds 1/72 F-4 PHANTOM II



F-4 ファントムII 製作完全ガイド

1/72 ファインモールド編

模型製作／清水雄平・しばやん
スケールアヴィエーション編集部／編

大日本絵画

CONTENTS

目次

序章	04
ファインモールドのF-4製作に必要なツールとマテリアル	06

08 CHAPTER I 第I章

空自機で基本を極める

STEP 1: コックピット周りの製作	12	STEP 7: 下地塗装とシャドー吹き	31
STEP 2: インテークの組み立てと塗装	19	STEP 8: 制空迷彩塗装	33
STEP 3: 仮組みとスジ彫り	21	STEP 9: デカール貼り	37
STEP 4: 胴体の組み立てと修正	24	STEP 10: 最後の仕上げ	39
STEP 5: ギアとキャノピーの製作	26	FINISH: 完成!	44
STEP 6: 尾翼周りのメタリック塗装	28		
エクストラ①: パイロットフィギュアの塗り方 ビギナークラス&ハイクラス	17		
エクストラ②: F-4 ファントム II に爆弾やミサイルを搭載させるなら	48		

50 CHAPTER II 第II章

ベトナム迷彩塗装を極める

F-4 ファントム II を手軽に迷彩塗装するために必要なマテリアル	55
STEP 1: 下準備とシャドー吹き	56
STEP 2: マスキングパテによる迷彩①	58
STEP 3: マスキングパテによる迷彩②	61
STEP 4: 迷彩のタッチアップと褪色	62
STEP 5: 機体下面と各部の塗り分け	63
FINISH: 完成!	64
エクストラ③: F-4 ファントム II を飛行姿勢で作ってみよう!	68

72 CHAPTER III 第III章

ウェザリングを極める

F-4 ファントム II のウェザリングを極めるためのツールとマテリアル	78
STEP 1: 情報量を増やす追加工作	79
STEP 2: 汚しを意識した基本塗装	80
STEP 3: メインとなるウェザリング	83
STEP 4: メタリック部分の汚し	85
STEP 5: 汚しのアクセントを加える	87
FINISH: 完成!	88
エクストラ④: 年表で追うファインモールド F-4 ファントム II 大全!	94
奥付	96



TOOLS & MATERIALS

ファインモールドのF-4製作に必要なツールとマテリアル

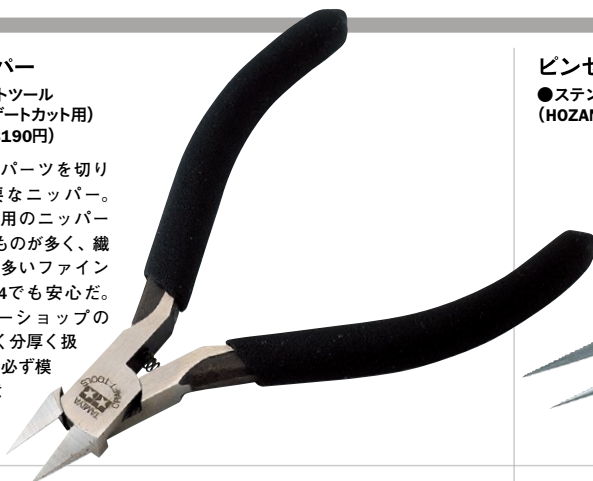
第1章において必要となるベーシックなツールとマテリアルをリストアップ。最低限これらを揃えてから製作していくのがベストだが、まずは本ページとキットの説明書、そして第1章の各工程を先読みして、自分に本当に必要そうなアイテムに絞って入手するのもOKだ

Tools 揃えておくべき工具や道具

模型用ニッパー

●タミヤクラフトツール
薄刃ニッパー(ゲートカット用)
(タミヤ 税込3190円)

ランナーからパーツを切り離す際に必要なニッパー。なかでも模型用のニッパーは刃先が薄いものが多く、繊細なパーツの多いファインモールドのF-4でも安心だ。逆に100円均一ショップのニッパーは重く分厚く扱いづらいので、必ず模型用を1丁用意しておこう



ピンセット

●ステンレスピンセット
(HOZAN 税込957円)

指先で掴むことができない小さなパーツを接着する際に使うのがピンセット。塗装する際の持ち手としても、マスキングといった細かい作業をする時にも役立つぞ

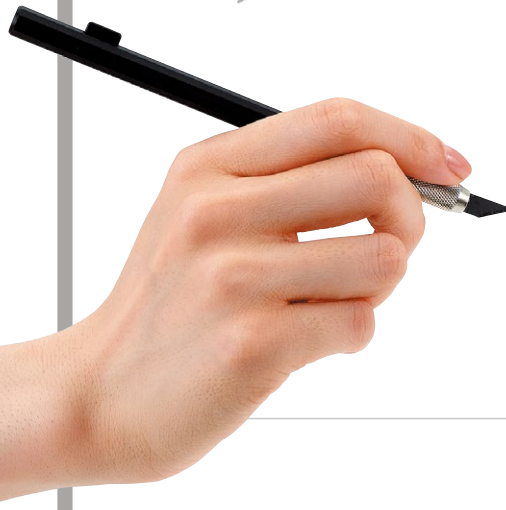


▶ピンセットの先には「幅広」「ツル首」など様々な種類がある。迷ったらとりあえずは先細タイプをゲットしておこう

デザインナイフ

●タミヤクラフトツール
モデラースナイフ
(タミヤ 税込1045円)

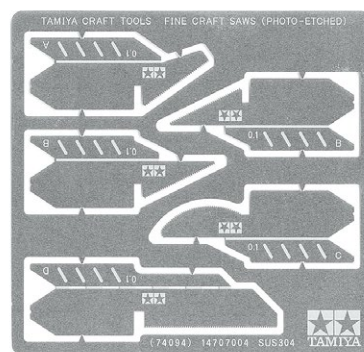
通常のカッターよりも取り回しやすく、パーツ切断後のゲート痕処理に大活躍するのがデザインナイフ。手軽に刃を交換することもでき、パーティングラインの除去やちょっとしたスジ彫りにも使える、模型製作との相性が抜群なツールだ



エッチング製ノコギリ

●タミヤクラフトツール
精密ノコギリ(エッチング製)
(タミヤ 税込990円)

薄い金属製の精密ノコギリ。様々なメーカーから発売されているが、タミヤのエッチング製ノコギリは安価かつ5タイプ付属するためオススメ。合わせ目処理中に失われたパネルラインの再生や彫り増しに使用する



ピンバイス

●HG ワンタッチピンバイスセット
(ウェーブ 税込1980円)

ピンバイスはプラスチックに丸い穴を開けるための工具。戦車や艦船など他ジャンルにおいても重宝するので、ドリルの口径は0.5mm~5mmと複数種揃えておくといい。今回のF-4ではパイロンや増加燃料タンクを搭載する際に活用



▲ファインモールドのF-4に限定するならば必要なのは1mm口径のドリル刃のみだ



◀プラモデル用でなくともコンパスの針や裁縫用のニードルで代用することももちろん可能



スジ彫り用ニードル

●HG カービングニードル
(ウェーブ 税込550円)

浅いパネルラインをなぞるように走らせ、深めるための専用ツール。ファインモールドのF-4は機体表面のパネルラインやモールドが非常に繊細なので、これらを彫り増ししてあげるだけで全体の印象が大きく変わってくる

筆

●タミヤ メイクアップ材シリーズ
モデリングブラシHFスタンダードセット
(タミヤ 税込770円)

大まかな塗り分けはエアブラシで行なうものの、計器板や翼端灯といった細かい部分の塗装には筆を用いる。小さなディテール用の細い面相筆、汎用の中サイズの面相筆、さらにウォッシングの際に便利な幅広の平筆、この3種類を揃えておくとうまくいく



エアブラシ

●スプレーワークHG
エアブラシ(カップ一体型)
(タミヤ 税込1万3530円)

広範囲の塗装をムラなく素早くこなせるエアブラシは飛行機模型の強い味方。第1章のF-4EJ改では0.3mm口径のエアブラシを使用し、コクピットの基本色や空自機の2色制空迷彩を塗装している。エアブラシを活用するにはエアホースやコンプレッサー(またはエア缶)といった備品一式も必要となる



CHAPTER I

第I章

空自機で基本を極める

正確なディテールと組み立て易さを考慮した設計でファインモールドから登場したF-4ファントムII。ここでは航空自衛隊F-4EJ改の製作工程をステップバイステップで紹介していく。まずは組み立てから塗装の基本をマスターしよう



KIT SELECTION

使用キット

国内ファンにとって馴染みの深い航空自衛隊のファントムIIがこのF-4EJ改。2020年10月に同時発売されたEJ型との、ライトニングストリップや水平尾翼補強板、アンテナやセンサーといったディテールの違いも正確に再現。マーキングは第306飛行隊375号機、百里基地の440号機が付属

●航空自衛隊 F-4EJ改 戦闘機
(ファインモールド 税込4290円)

航空自衛隊 F-4EJ改 戦闘機
ファインモールド 1/72 インジェクションプラスチックキット
製作/清水雄平

JAPAN AIR SELF-DEFENSE FORCE F-4EJ Kai PHANTOM II

QUICK INDEX

ステップガイド



STEP 1

コクピット周りの製作

見せ場となるコクピットはキットそのままでも十分に精密感が得られるが、ここでは各部塗り分けのコツや純正アフターパーツを用いたディテールアップ術を紹介。胴体組み立て前に済ませておくべき機体内部の製作を行っていく



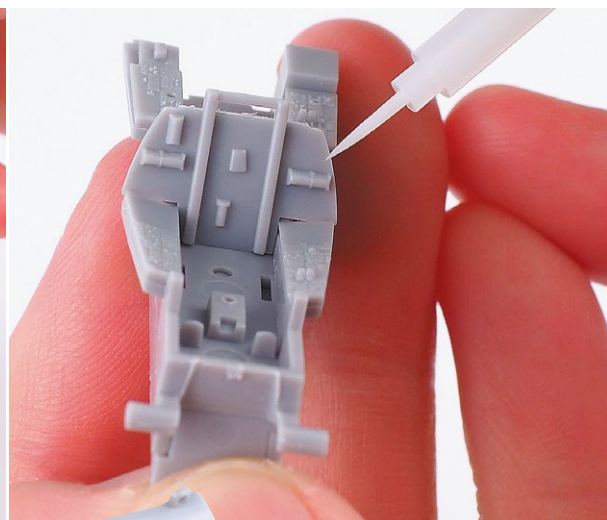
コクピットパーツの 切り出しと接着

A-1. 必要なパーツをニッパーで切り出す

パーツの切り出しには模型用ニッパーを使用する。コクピットのみならず多くのパーツ同士が組み合わさるため、ゲート処理は丁寧に行なう。コクピットの計器板はデカールで再現することも出来るが、今回はモールドを活かした塗装による塗り分けで仕上げていく

A-2. コクピットの主要パーツを 接着して組み立てる

コクピットフロアの大部分は基本的に単色塗装となるため、塗装に支障のないパーツは適宜、流し込みタイプの接着剤で接着してしまおう。パーツ同士の接着の際には念入りに擦り合わせを行ない、極力隙間などが発生しないよう注意する



A-3. 塗装する前に仮組みしてパーツの合いを確認しよう

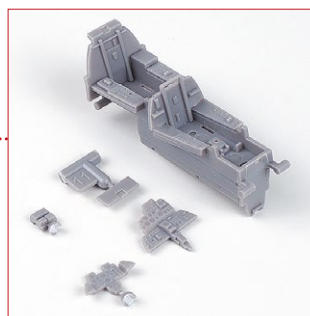
実際に組み上がった際にパーツがキチンと機体に収まるのか、また完成するとどれくらい見えるのかなど、塗装を始める前に一旦仮組みをして確認しておこう。奥まった箇所はどこまで塗装すれば良いかをあらかじめ把握しておくことで、その先の工程の無駄を省くことにも繋がるのだ



ONE POINT!

すべて接着してしまうのはNG

コクピットフロアとは異なるカラーや部分塗装が必要なパーツは個々に塗装するため、全てのパーツをいきなり接着しないこと。また小さいパーツはランナーごとカットしておくことで塗装の際に持ち手となるのでとても便利だ



STEP 10

最後の仕上げ

機体本体にウォッシングを施しメリハリを利かせ、モチベーションが上がったところで細部の塗装を済まし、またこれまで組み立てた小物パーツの組み付けを行っていく。ここまでくれば完成は目前。気をぬくことなく最後の仕上げに取り掛ろう！

A

ウォッシングで 手軽に汚しを演出する

A-1. スミ入れ塗料のダークブラウンを ウォッシングの要領で全体に塗る

デカールが完全に乾燥したらスミ入れ塗料のダークブラウンを用いてウォッシングを行なう。平筆にたっぷりと含ませ、モールド全体にしっかりと流れるように塗りつける。完全に乾燥させるために最低でも1時間は触らないようにする



◀キャノピーは本体と同じ感覚でウォッシングを行なうと、マスキング内に染み込んでしまう可能性が高い。ドライブラシの要領で塗料を塗り付けていくのが安全

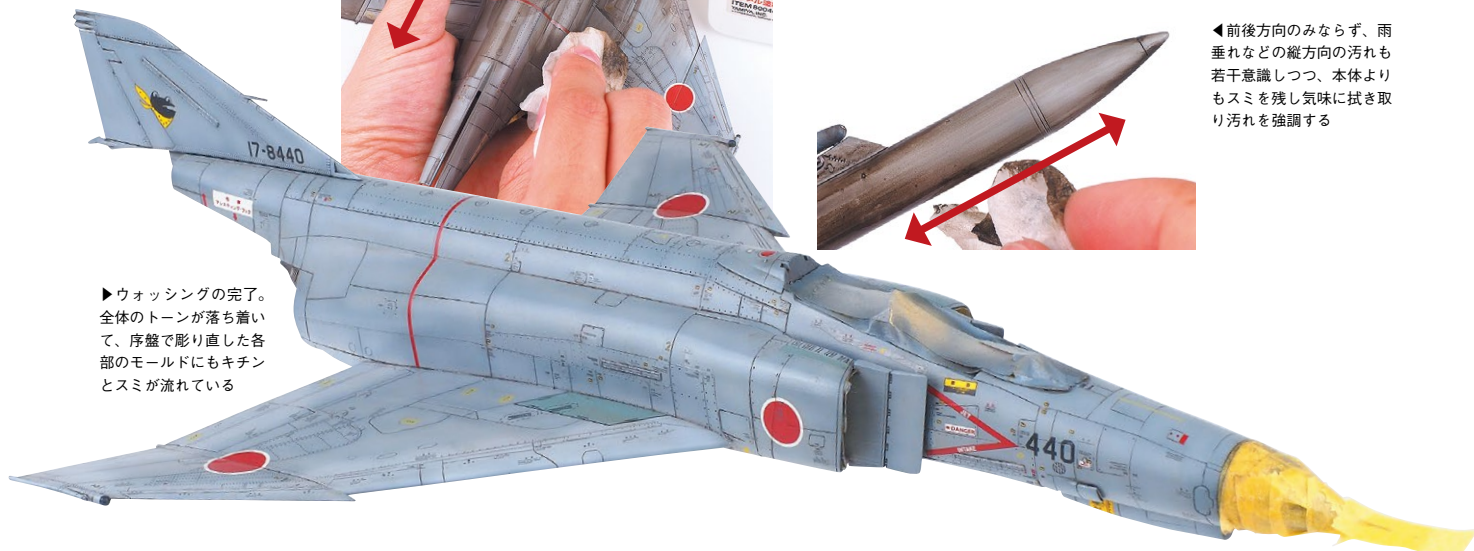
A-2. 機体の進行方向を意識しながら キムワイプ／綿棒で拭き取る

ウォッシングの拭き取りは、ただ漫然と拭い散ればよいというものではない。拭き取り跡がそのまま航空機の汚れをイメージさせるものとなるため、拭き取る方向も意識することが大切なのだ

▶航空機の汚れは気流に沿って流れる。そのため機体本体のふき取りではエナメルうすめ液をキムワイプに含ませ、前から後ろに向かって拭き取ると自然な仕上がりが得られる。キムワイプも綿棒と同様、ある程度汚れてきたら交換しよう



▶ウォッシングの完了。全体のトーンが落ち着いて、序盤で彫り直した各部のモールドにもキチンとスミが流れている



A-3. スミ入れ塗料の拭き取り具合で ウェザリングの強弱をコントロール

機体本体だけではなく、装備される増加燃料にもウォッシングを行なう。塗装の工程は機体本体と変わらないが、燃料タンクは繰り返し何度も使用されるため、本体よりも汚しを強調するのがポイントだ



◀機体本体と同様の手順でシャドー吹き、基本塗装、再シャドー、褐色表現を行なったのちにウォッシングを施す



◀前後方向のみならず、雨垂れなどの縦方向の汚れも若干意識しつつ、本体よりもスミを残し気味に拭き取り汚れを強調する

STEP 2

マスキングパテによる迷彩①

1/72スケールでは特に繊細なコントロールが求められる3色以上の迷彩塗装。誰でも簡単にでき、失敗時の手直しも容易な水性色鉛筆を用いた下書きメソッドのほか、本章の肝となるマスキングパテの活用方法をマスターしよう

A

迷彩の1色目 ダークグリーンへの塗装

A-1.基本塗装の開始

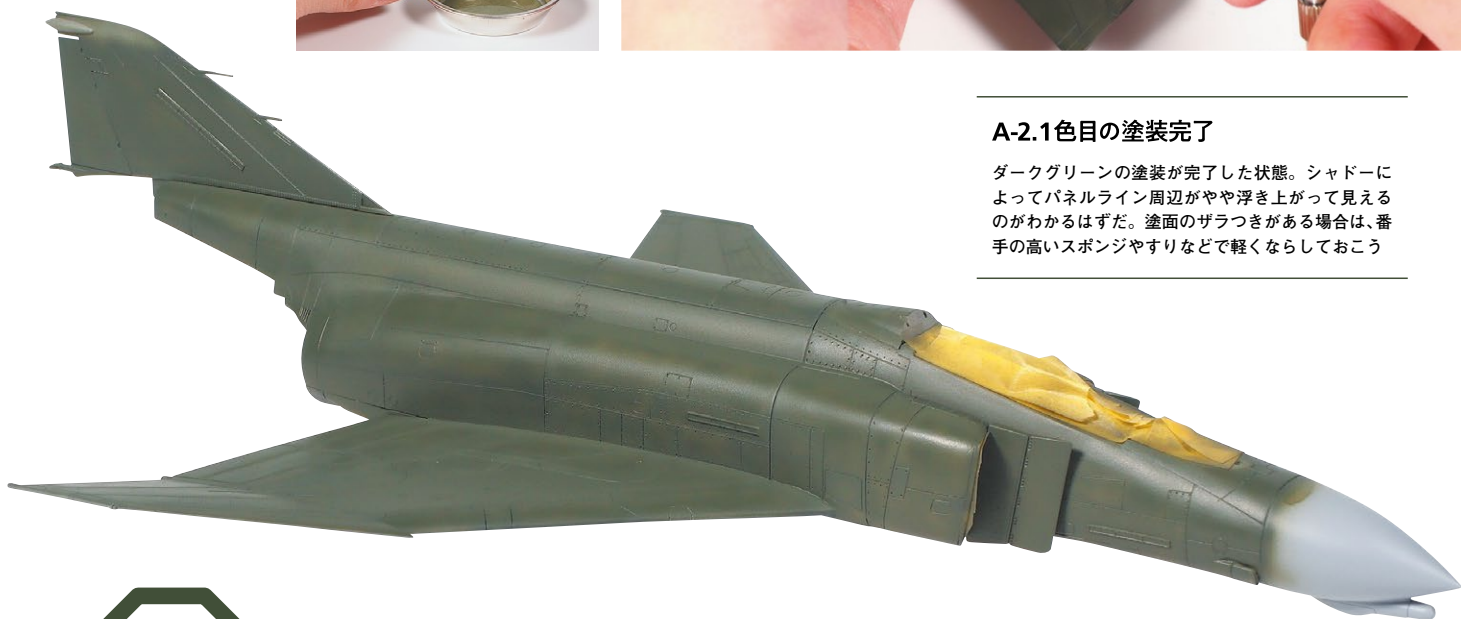
まずは迷彩の1色目となるダークグリーン(影色の調色にも使用したC309)をエアブラシで塗装していく。このダークグリーンは2/3色目(ライトグリーン・ブラウン)の下地色も兼ねるので、上面全体に塗料が行き渡るように塗装しよう。薄めに希釈し、ミストの飛び散り防止にエア圧はやや弱めに。この時点でダークグリーンがやや濃過ぎても、仕上げの褪せ塗装で明度を上げることできるのでリカバリーは簡単だ

▶希釈にはMr.レベリングうすめ液を使用。なるべくミストの飛び散りが生じないように、濃度は薄めにエア圧もやや低めに設定している



A-2.1色目の塗装完了

ダークグリーンの塗装が完了した状態。シャドーによってパネルライン周辺がやや浮き上がって見えるのがわかるはずだ。塗面のザラつきがある場合は、番手の高いスポンジやすりなどで軽くならしておこう

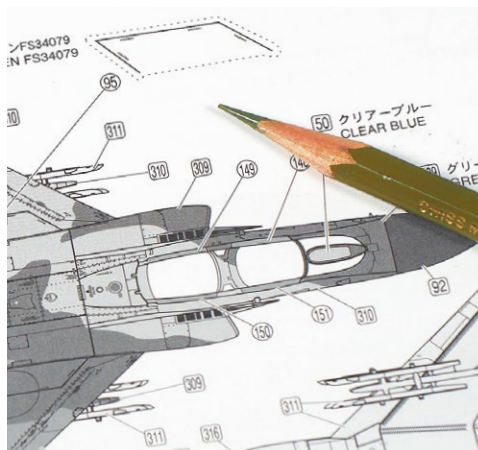


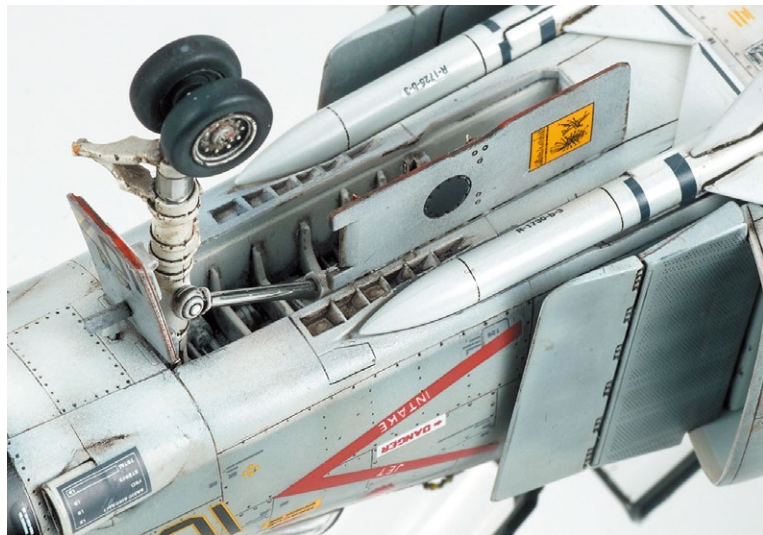
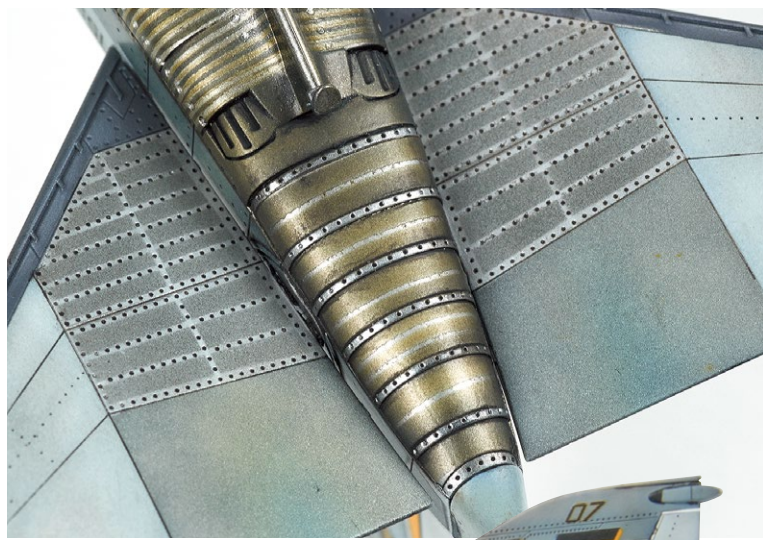
B

2色目の迷彩塗装に 備えた下書き

B.色鉛筆で境界を描き込む

塗装図を参考に2色目、ライトグリーンとの境界を塗装色と近い水性色鉛筆で下書きをする。第1章では希釈した塗料と面相筆で描き込みを行なったが、ベトナム迷彩は主翼や胴体を横断する複雑なラインが多いため、より均一な細さで線を描き込むことができる色鉛筆が最適との判断。また描き直す際にも水性色鉛筆は消しやすく、下のラッカー塗面への影響も少ない





FineMolds

F-4 ファントムII 製作完全ガイド 1/72 ファインモールド編

ISBN978-4-499-23371-2 C0076 ¥4000E

定価(本体4,000円+税)



9784499233712



1920076040009



UNITED STATES NAVY
F-4J
PHANTOM II